

■早田文蔵 苦学して植物学者となり、独自の動的分類学を唱え、台湾植物1,636種を命名して“台湾植物の父”といわれる。

はやたぶんぞう
佐賀の乱・・・1874＝ 新潟県蒲原郡加茂町で、敬虔な仏教徒(法華經)の家に生まれる。

幼くして父を亡くし、

明治14年政変1881＝ 7歳：

岩倉具視没・1883＝ 9歳：

さらに祖父母も失って、旧制中学を中退、

帝国憲法発布1889＝15歳：

帝国議會始・1890＝16歳：_植物学に興味を持ち、以後、独学。

大本教・・・1892＝18歳：_上京して、中学校に入り直すとともに、{東京植物学会}に参加。

日清戦争始・1894＝20歳：

日清戦争終・1895＝21歳：日清戦争に勝利した日本は、台湾を領有化し、総督府を設置。

八幡製鉄始・1897＝23歳：卒業して、_高校に進み、植物サンプルを集め始める。

ピアノ/国産化・1900＝26歳：_東京帝国大学理学部植物学教室に入学、主任教授は、初代小石川植物園長松村任三で、12歳上の牧野富太郎もいたが、牧野はこの時には、松村ははじめアカデミズムから排除されつつある時期にあった。

田中正造直訴1901＝27歳： 在学中には、尾瀬を探検し、植物を観察しながら1日70キロも歩いたと言う。

日比谷公園・1903＝29歳：卒業して、大学院に進み、松村の薫陶を受け、

日露戦争始・1904＝30歳：小石川植物園の助手に任命された。

日露戦争終・1905＝31歳：_台湾総督府の依頼で台湾の植物研究に着手、奥地に入るときは、銃をもった警官が護衛につき、マラリアにかかって死にかけたことも度々という状況のなか、

満鉄発足・・・1906＝32歳：_リンネ協会{植物誌}に、フォルモサ島(台湾)の針葉樹の新属(タイワンスギの発見)について発表し、

韓国反日暴動1907＝33歳：_早くも理学博士号を取得。以後、論文を次々と発表、

アヲキ`創刊・1908＝34歳：東京帝国大学の{科学}に、フォルモサ島の山で見つかった植物の列挙。植物学部の講師になる。

伊藤博文暗殺1909＝35歳：植物学研究を深めるべく、自費で、ヨーロッパ諸国をまわり、ダーウィンの進化論の影響も受け、_現在認識されている台湾の植物相のうち14%・549種を発見し命名するに至って、

韓国併合・・・1910＝36歳：

大逆事件判決1911＝37歳：{科学}に、「フォルモサの植物相のための材料」。この年から、_台湾総督府生産産業局から「台湾植物図譜(I cones PlantarumFormosanarum)」の刊行が始まる。

明治天皇没・1912＝38歳： 台湾植物の命名にあたって、フランス人神父のユルバン・ジャン・フォーリーが残した資料に拠る部分が多かったことから、謝意を表して日本人から寄付を募り、

ロシア革命・1917＝43歳：神父の銅像を建てている。_続いて、台湾と大陸の植物を観察して比べたいと思い始め、この年、台湾総督府の援助でトンキンへの植物探検に着手。

ベルサイユ条約・1919＝45歳：_東京大学の助教授に昇進、

大暴落・・・1920＝46歳：_台湾の植物相への貢献で、帝国学士院より、桂宮宣仁親賞。

原敬首相暗殺1921＝47歳：_*「台湾植物図譜」全10巻の刊行が終わる。再びインドシナ調査に向かい、メコン川を船で下りながら1万点にも及ぶ植物を採集、メコン川を下った初の日本人となった。

水平社結成・1922＝48歳：_植物学教室教授に昇進。以後、「台湾植物図譜」の最終巻で発表した「動的システムによる植物の自然分類独自の動的システムによる植物の分類」の理論化に傾倒、

護憲三派圧勝1924＝50歳：_附属植物園の所長に任命されたが、

共産党事件・1928＝54歳：

世界恐慌・・・1929＝55歳：_心臓発作でたおれ、

海軍軍縮条約1930＝56歳：_東京大学を退官、計画していた3回目のインドシナ調査やブラジル調査を断念し、閉じこもって研究、

満州事変・・・1931＝57歳：_ドイツ植物学会会報にドイツ語論文「植物の動的分類体系について」を発表、ネットワーク表現図などが大きな影響を及ぼし、のちの表形分類学登場の契機になって、特定の学者らからは尊敬されるものの、

国際連盟脱退1933＝59歳：_*「植物分類学」を出版、法華信徒として、ダーウィンの進化論を否定するようなものであったため、学界から猛烈な反発をかうなか、

帝人疑獄事件1934＝60歳： 心臓病のため、_没した。

標準的な著者の略語Hayataは、植物の学名で命名者を示す場合に早田文蔵を示すのに使われる。2年後、台湾総督府は功績をたたえ記念碑を現台北植物園に建てたが、太平洋戦争のどさくさでフォーリー神父の銅像ともども行方不明となり、最近になって、神父の銅像の金型が発見されて復刻するとともに、2017年、早田の記念碑も新たに作成された。また、2016年に、台湾で初めて詳細な伝記(呉永華「早田文蔵：臺灣植物大命名時代」)が出版された。